

# SBJ

vol.26

2014年6月23日発行

碩学舎ビジネス・ジャーナル  
Sekigakusha Business Journal

碩学舎×Sカレ

## 1からの学生生活 企む大学生

いざ、企みの時。

「やりたいこと」が「できない」そこの貴方。この一冊で「できる」貴方になりませんか？

一橋大学 松井剛ゼミ 松原 悠・佐藤 あゆみ・井上 恵夢



# 目次

---

この本を読み進める前に .....	P.2
<b>1章 企画とは?</b> .....	<b>P.3</b>
1-1 夢見る大学生活を実現したいみなさんへ	
1-2 企画なんてできない?そんなことない!	
1-3 本書の構成	
<b>2章 企画から得られるもの～磨け、自分力～</b> .....	<b>P.7</b>
2-1 企画を楽しもう!	
2-2 企画で自信を付けられる!	
2-3 つながりを作る!	
<b>3章 大学生の実態</b> .....	<b>P.10</b>
3-1 学生たちの悩み	
3-2 相談してみよう!	
3-3 手順を考えよう	
<b>4章 企画を起こした大学生の実例</b> .....	<b>P.13</b>
<b>5章 あなたの企画日記</b> .....	<b>P.19</b>
5-1 企画マップ～企画に向けて準備をしよう!～	
5-2 あなたの企画日記～さあ、企画を実行しよう!～	

# この本を読み進める前に・・・

---

## みなさんには今、やりたいことがありますか？

どんなにちっぽけなことでも、今すぐにはできそうにないものでもかまいません。  
手元にノートを用意し、思いっただけ書き込んでみてください。

みなさんが今やりたいと思っているこれらのことが大学4年間で実現できれば、大学生活を終えた時に「充実した大学生活だった」と振り返ることが出来ると思いませんか？

もしかしたら、今の段階ではやりたいことの実現に向けた一歩がなかなか踏み出しにくいかもしれません。

ではどうしたらよいのでしょうか？

**答えは、この本を読んで、全部「企画」してしまうことです。**



## 1-1 夢見る大学生生活を実現したいみなさんへ

私がこの本を書いたのは、現在の大学生に関して常日頃感じていることがあるからです。

それは、

**大学生には必ずといって良いほどやりたいことが山積みになっているはずである。しかし、現在の大学生には、自分のやりたいことを実現できないままグダグダと大学生活を送ってしまっている人が多い。**

ということです。

恥ずかしながら、この本を書いている私自身、大学に入学した当時はやりたいことが沢山積み重なってはいましたが、なかなか行動に移せない「口だけ大学生」でした。

「合コンを企画して大学生っぽいことをしたい」「地域でゴミ拾いなどのボランティアに参加したい」「ダブルスクールをして公認会計士の資格をとりたい」「大好きな釣りが思

う存分できるようなサークルを立ち上げたい」……………

私が当時やりたかったことは今考えるだけでも数えきれないほど出てきます。しかし、このうちいくつ実現できたでしょうか。合コンの企画、ボランティアへの参加、サークルの立ち上げ……何一つできない大学1年生でした。

大学生活なんて有り余るほど時間があるんだから、そのうちやりたいことを全部実現できるはずだ、などという何の根拠もない甘い考えがどこかにあったのでしょうか。この結果、私の大学生活1年目はただただ過ぎていくだけの中身の無い時間となってしまいました。ぼーっとしていて気がついたら学校の課題提出締め切りや期末試験が近づいてきていた、なんて経験が皆さんにもあると思います。大学に入学しても、あっという間に部活やサークルで先輩になり、ゼミや研究室を選ぶ学年になり、就活生になり、そして卒業生になります。

私は大学2年生になってようやく「何もしないままでは大学生活の4年間があっという間に過ぎて行ってしまう」「こんなグダグダした大学生活は絶対に嫌だ」ということに気が付きました。私の身の回りには同じような後悔をしている学生がたくさんいます。おそらく、みなさんの先輩にも同じような悩みを抱えている人がいるはずで

「時間は膨大にある、あとからやればいい。そんな考えでは後悔しか残らない。時間は限られている、やりたいことはやらなければならない。自分のやりたいことは徹底的にやり、充実した大学4年間を送りたい。」

そう思った私はやりたいことを徐々にですが行動に起こし始めました。

始めは「サークルでの学年会」の企画などでした。こんなものはちっぽけなアイデアです。しかし実際にやってみると、友人の喜んでいる顔を見ることができたり、どこか自分を発揮できているような感じがしたりして非常にワクワクするものです。

このように一度やりたいことを行動に起こしてみると不思議なことに大学生活がガラリと変わります。やりたいことがどんどん頭に浮かんできて、たっぷりあるはずの時間が、まったく時間がなくらいに感じてしまいます。

充実した大学生活って、こうやって過ごしていくものじゃないでしょうか。

さて、ながながとお話ししましたが、みなさんにもきつとやりたいことがたくさん山積みされているのではないのでしょうか。しかし、やりたいことを実行することができない学生が多い。3章で詳しく述べますが、これが今の悲しい現状です。

しかし、私は大学とは自分のやりたいことを行動に起こす場所であると考えています。そのためにはどうしたらよいのか。答えはやりたいことを「企画」にして実行することです。これから4年間大学生活を送っていると、自分のやりたいことを次々と企画し、自分を発揮して充実した大学生活を送っているような仲間に出会うことが必ずあるでしょう。読者のみなさんにも是非その仲間入りをしてもらいたいと思っています。

## みなさんも充実した大学生活を送るために、この本を読んで「企画」を起こしましょう。

では、「企画」とは何なのでしょう。

それは期末試験に向けて仲間を集めて自主ゼミを開催すること、やりたいことを実現するためにサークルを創設することなど、1人ではできないようなプロジェクトを新しく立ち上げることです。

私の所属しているゼミの先輩にはまさに大学生の鏡とも言うべき、谷脇さんという「企画屋」がいます。谷脇さんは大学に入って間もなく、お笑いのサークルを立ち上げることに成功しました。当時の大学にはお笑いサークルが存在していなかったようで、大学でお笑いを絶対にやりたいと思っていた谷脇さんはショックを受けたそうです。しかしすぐに頭の中にはある考えがうかびました。

「ないなら、自分で作ればいいじゃん。」

谷脇さんはわずか1か月でサークルの正式登録を完了し、サークルは創部4年目にして40人もの団体へと成長しています。谷脇さんについては後に詳しく説明しますが、谷脇さ

んが大切にしている言葉があるのでここで紹介しておこうと思います。

「世界は自分中心にまわっているんだ。やりたいと思ったことはどんどんやればいいんだ。他人にどう思われるかなんて関係ない」

まさにその通り。周りが協力してくれるか、賛成してくれるかわからないから企画を起こすのが怖い、そういう学生のみなさんも中にはいるかもしれません。しかし読者のみなさんには、やらずに後悔することだけは避けてほしいと思っています。自分の起こした「企画」が100%満足のいく結果になるかというと必ずしもそうは言えないと思います。むしろ最初のうちは反省点の方が多いかもしれません。しかし、「企画」には必ず学びがあります（第2章参照）。そこからえられるものがたくさんあります。この学びを経験することで、大学生活をより深く、充実させていくことができるのです。

大学生活はやりたいことを「企画」してこそ意義のあるものです。

さあ……

# 今こそ企め、 大学生。

## 1-2 企画なんてできない?

### そんなことない!

みなさんは「企画」という言葉を聞いてどんなイメージを持ちますか?

何でも構いませんので、5つ書き出してみてください。

1.
2.
3.
4.
5.



いかがでしょうか。

- ・ 楽しそう
- ・ リーダーシップを発揮できそう
- ・ カッコいい

などのプラスのイメージを抱いた方もいれば、中には

- ・ 手順が難しそう
- ・ なんかもんどくさそう
- ・ 自分にはできる能力がなさそう

もしかしたらそんなマイナスな答えを書いたかもしれません。

もしかしたらここまで読んだ段階で、読者のみなさんの中には、すでに企画に対して高い壁を感じさせてしまっている人もいないかもしれません。「企画を起こすにはいろいろな手続きとか必要そうだし・・・周りの協力も必要だし・・・自分には是対できない」そう思った人もいないかもしれません。確かに自分で企画を立ち上げることはそんなに簡単なことではないと思います。企画は、単になにかアイデアを思いつくだけでは実現できません。企画が完成するまでの流れを把握したり、身近な友達から社会人にまで声をかけたり、企画によっては実際に手続きが大変だったり・・・完成までには必ず苦勞が伴うものです。

でも、ご安心ください。

## 企画は誰にでも 実現することができます。

### 大学生の企画を支援してくれる人達 ~「夢」プロジェクトの例~

ここで、早稲田大学で実現した企画「夢」プロジェクトを紹介しましょう。「夢」プロジェクトとは、夢をもった学生が大学生協と協力して、やりたいことを実現するプロジェクトです。早稲田大学では、数名の学生が「本を書きたい」という夢を大学生協に相談しました。そこで大学生協が出版社の協力を申請し、作成に向けたプロジェクトが進行し始めました。本の完成までにはかなりの苦勞が伴ったそうです。学生は社会人相手に自分たちの本を提案しなければならず、何度もやり直しを命じられたそうです。出版社との度重なる打ち合わせの結果、1冊の本が実際に作成されました。この本は実際に大学生協で販売されています。

このことから私が言いたいのは、学生には協力してくれる人達がたくさんいるということです。「夢」プロジェクトの例からわかるように、自分たちだけでは実現が難しい内容もあるかもしれません。やりたいことがあるのになかなか実行できない理由として、周りが協力してくれるか不安であるということなどもあるでしょう。しかし、読者のみなさんには、学生に協力してくれる人は周囲に意外とたくさんいるということをぜひ知っておいていただきたい。

「夢」プロジェクトに協力した早稲田大学生協の日浅さんに嬉しいお言葉をいただきました。

**「困ったら何でも生協に言ってほしい。」**

**学生にできないことなんてないよ。やったらできるもの」**

あなたの企画を支えてくれるのは大学生協だけではありません。

友達でも先輩でも、社会人でもまずは声をかけてみるものです。きっと協力してくれる仲間がいるはずですよ。もちろん、本書もあなたの企画を全力で応援します!

企画を起こすことに不安を感じている方にもう一度だけ言わせてください。

# 企画は誰にでもできます!

まずはやってみる事です。自分から行動を起こし、協力してくれる仲間を見つけてみましょう。

## 1-3 本書の構成

さあ、企み尽くしの4年間へ向けいよいよ出発です。

その前に各章でお話ししていく内容を軽く紹介しておきます。

### ~第2章~

企画を起こすことで、どんなよいことがあるかについてお話しします。

### ~第3章~

現在の大学生が「企画」に関してどのような悩みを抱えているのかを紹介します。また、それに対してアプローチをかけ、企みの実現に1歩ずつ近づけます。

### ~第4章~

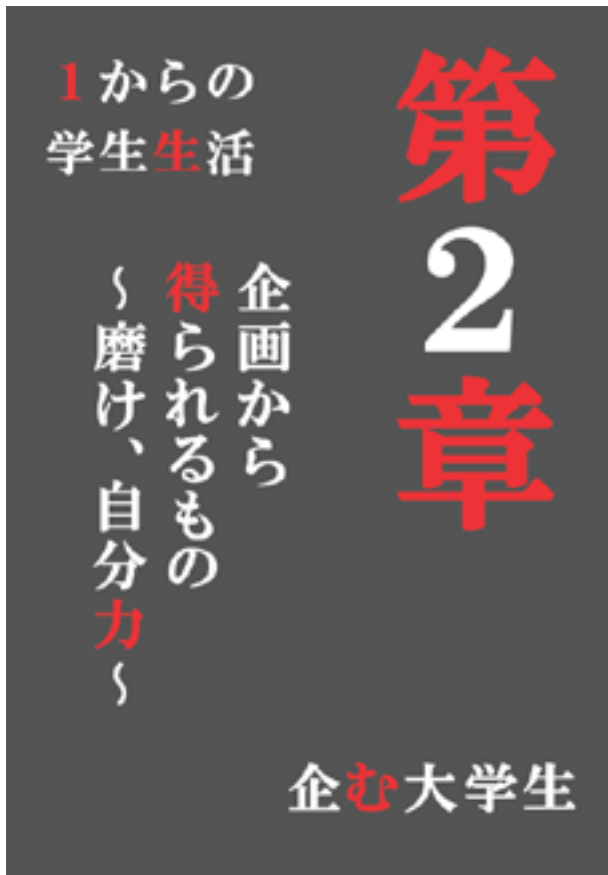
みなさんの先輩がどのようなプロセスでやりたいことを実現したのか、どんな苦勞に直面したのか、困難にどのように立ち向かったのかなどを紹介します。そのなかには、みなさんにも実現できそうだと思う内容のものがあるでしょう。先輩の企画が、実行するうえでの手助けになったり、新しいアイデアのきっかけになったりするかもしれません。

### ~第5章~

いよいよ、みなさんが実際に「企画」を起こす番です。企画を実行するのに使えるコンテンツを〇〇つ用意しています。まず「**企画マップ**」を参考に、企画の目標や手順などを練っていただきます。さらに、起こした企画の軌跡を確認できるようにワークシートに取り組んでいただきます。この「**あなたの企画日記**」には、苦勞したこと、困難にどう立ち向かったかなどを記録していき、自分だけの企画日記を作成しましょう。

最後まで読み終えるとあなたはきっとやりたいことを実現したくて仕方がない、そんな行動力のある大学生になっているはずです。「企画」の楽しさを発見し、大学生活を思い出の溢れる充実した時間にしましょう。





第1章では、充実した大学生活を送るためには、やりたいことを企画として実行することが必要であるとお話してきました。次にみなさんにお話しするのは、

## 企画を起こすことで具体的に どんないいことがあるのか？

ということです。

企画を起こすことには必ず苦勞・努力が伴います。企画を起こすには、何をしたいか目標を定め、目標までのプロセスを考える。プロセスができたなら必要に応じて仲間に声を掛ける。そして目標の達成までに様々な困難に立ち向かいながら、ようやく達成できるものです。

こうした流れのなかで得られるものが大きく3つあります。それは

ワクワク感、自信、つながり  
です。



## 2-1 企画を楽しもう！

みなさんが楽しくて仕方がない、そんな興奮を感じるのはどんな時ですか。

サークルの友達との飲み会、好きなアイドルのライブなど、もっと身近な例で考えると高校のときの文化祭や体育祭なども思いつくかもしれませんね。楽しい時間はあっという間に過ぎていくものです。ここで注目してほしいのは、みなさんが楽しんでいる様子を見て、達成感や興奮を感じている企画側の立場の人が必ずいるということです。

企画をたてているときには、**ワクワクした体験**をすることができます。何よりその時を楽しむことができるということ、これがまず1つ目に企画から得られるものです。

どんな企画にしようかアイデアを出すときには、その企画を実現する自分の姿や企画を楽しんでもらえている友達の姿などが頭に思い浮かぶでしょう。実際に企画した内容を実現している間には、その企画を楽しんでくれている人を見ることができ大きな達成感を味わうことができるでしょう。企画をし終えたあとには、仲間たちと思い出話をしたり、フィードバックをもらったりするでしょう。こうしたすべての経験がワクワクするものであることは間違いありません。

一度ワクワクを経験した人は企画のおもしろさに夢中になってしまい、企画を起こさずにはいられなくなるでしょう。

**今は社会人となった法政大学OBの岩崎さんが、大学生協に関する企画を実現できたときの体験を語ってくれました。**

「私は学生の頃、大学生協の献立メニューの展示前について不満を持っていました。生協のメニューは日替わり制で、その日のメニューが何なのかを確認するために、学生は展示前に集まります。すると、お昼の時間には大混雑が発生しメニューの確認などできる状況ではありませんでした。そこで私は生協を使用しやすくするために献立表を作成し、生協を訪れる学生に配布することにしました。みなさんご存じのとおり、生協で配られる配布物はまるでゴミ扱い。配ってもすぐに捨てられてしまいます。私たちもゴ



ミになるかもしれないという覚悟で献立表を配りました。するとですね、大切にかばんに保管してくれている様子を見ることができたんです。その時の興奮というか、感動というか、そうした気持ちは今でも忘れられませんよ」

岩崎さんは嬉しそうにその当時に作った献立表を見せてくれました。もう何年も前にできたものをまるで新品であるかのように大切に保管していました。中身を見せてもらいましたが、毎日の献立メニューだけでなく、その季節のおすすめ料理、一人暮らし料理などコンテンツが満載でした。最初は献立メニューのみの掲載だったそうですが、やっているうちに楽しくなってきた献立以外の内容も盛りだくさんになってしまったようです。献立表を作っている作業そのものもだんだん楽しくて仕方のないものになってきたという話をしてくれました。

**また、私のサークルの先輩である小島里恵さんは企画を達成したことから得られたものについてお話ししてくれました。**

**小島さんは音楽サークルに所属し、メンバーの好きな曲を集めてオリジナルCDを作るという企画を起こしました。**

「そりゃ最初は不安でしたよ。だって、こんな個人企画なんて誰にどう思われているかわかりませんし。でも、サークルのみんなにすげえって言われるようにCDのデザインをおしゃれにするとか、メンバーからの一言コーナーを作るとか、とにかく自分にできることをがんばりました。私がCDを作り終えたとき、後輩の1人が“来年は僕が引き継いでやります!”って言ってくれたんです。そのときすごうれしかった。やってよかったって思えましたよ」

2人の話からもわかるように企画は最初から終わりまでワクワク感で満ちています。いかに自分たちや周囲の人が満足できる企画にするかを考えるアイデア出しの段階から、仲間と協力しながら作業を進める準備の段階、企画を楽しんでもらえているところを実際に見ることのできる実行の段階、そして企画のプロセスを振り返る打ち上げの段階に至るまで、様々なワクワク感があります。実際に企画を起こし、是非その楽しさを味わってみるようにしましょう。

## 2-2 企画で自信をつけられる!

先ほども述べましたが、企画を起こすときには様々な困難が伴います。目標の達成までに仲間との衝突があるかもしれませんし、一筋縄では解決できない課題に直面するかもしれません。ですが、ここでみなさんには絶対に諦めないでいただきたい。達成に伴う苦労・努力が大きいほど、そこから得られるものも大きいことは間違いありません。企画を達成することで自分に大きな自信が生まれます。

「こんな私にできるのかな。」なんて思っている学生がいざ企画をやってみると、「やってよかった。来年もやりたいけど、今回の反省をいかしてこういう風にしたいな」とガラリと考えが変わります。

私は大学2年生の時に、卒業した中学校のサッカー部で集まってサッカーをしたいと思い同窓会を企画しました。私たちの代には、部員が各学年5人程度しかいなかったのので、サッカーをするには何世代ものかつての部員に声を掛けなければなりません。私はまず親しい先輩、後輩から声をかけ、集められるだけの声かけをしてもらいました。しかしどうしても連絡のつかない先輩にはFacebookから声かけをしたり、参加する意志の低い人には何度もメールで勧誘したりしました。その結果、なんとその同窓会にはおよそ50人ものOB・OGを集めることができました。そのときお互いのことを「懐かしいね」なんて言い合いながら楽しそうに交流している人たちを見ることができ、本当に企画をしてよかったと思えました。初めはできるか不安だった内容が、いざやってみると実現可能であり、さらに企画を通して、話したこともない人を巻き込んで話し合いを実施したり、場所を確保するために初対面の顧問の先生に交渉をしたり、そして同期や先輩、後輩たちからたくさんのお礼の言葉ももらったりして、大きな自信を得ることができました。

「本当に楽しかったよ。来年もよろしくね」

なんて同期に言われたときには、自分ってこんなにまわりの人をとりこむことができるのだと思えました。

1つの企画が成功し、自信を得られればそれが次の企画へとつながります。自信がつけば大学生活のあらゆる場面で自分というものを発揮することができます。最初は誰しも

自信なんてありません。自分に自信のある人は多くの経験を積み、失敗を重ねながら、成長してきた人なのです。

**まずやってみること、  
それが本当に大切です。**

## 2-3 つながりを作る!

最後に得られるものは「つながり」です。

企画をすると、必ず誰かほかの人と関わりを持つことが必要になります。その人が親しい人であれ、見知らぬ人であれ、企画を通してその人とのつながりを作ることができます。つながりは広まるだけでなく、深まるものでもあります。企画の進行中に問題に直面すれば、解決するために他の人の協力が必要になるかもしれません。時には仲間と議論になることもあるかもしれません。そうした紆余曲折を通して、仲間とのつながりは一層深まります。

得られたつながりは将来多くのことに役立ちます。企画を終えた後には、誰かとつながっているという感覚が必ず残るでしょう。周囲からの信頼や評判もできあがっているでしょう。このつながりを利用して、より大きな企画を起こすことも可能です。

**ここで、第1章で紹介した谷脇さんのサークル立ち上げに関して、別のお話をしましょう。**

「サークルではお笑いライブの運営をしないといけないんだけど、最初は全部自分でやっちゃってました。だって、そのほうが絶対早いと思ったし、他の人にまかせるのも申し訳ないなって思ってもいたから。でも、サークルで会議をしたときに、自分はずっと他人を信頼すべきだって言われたんです。そこですごく反省しましたね。今思うと、みんなで協力してやったほうが絶対時間がかからなかったし、質の高いライブになっていたなって感じるんです。そうしたいざこぎもあって、まわりと協調しながらやれるようになったと今は思っています。」

このように企画はやればやるほど、つながりが広まり、深まっていくものです。大学生活中にできた仲間には、将来も深く付き合っていく仲になるような人もいるでしょう。是非、4年間で人とのつながりを作っていきましょう。



第2章では、企画を起こすことで皆さんが「何を得られるか」について、実際に企画を起こした学生の実体験を交えながらお話ししました。この章で取り上げる内容は、ズバリ「大学生の実態」です。

### 3-1 学生達の悩み

時間はたっぷりあったのに、やりたいと思ったことを結局行動に移せなかったという経験、あなたにもありませんか？

事実、現役大学生500人にアンケートを行った結果、9割以上の大学生が「大学生活でなにかやりたいことがあった、またはある」と回答しました。しかし、そのなかの半数以上は「それを実行することができなかった」と回答しているのです。

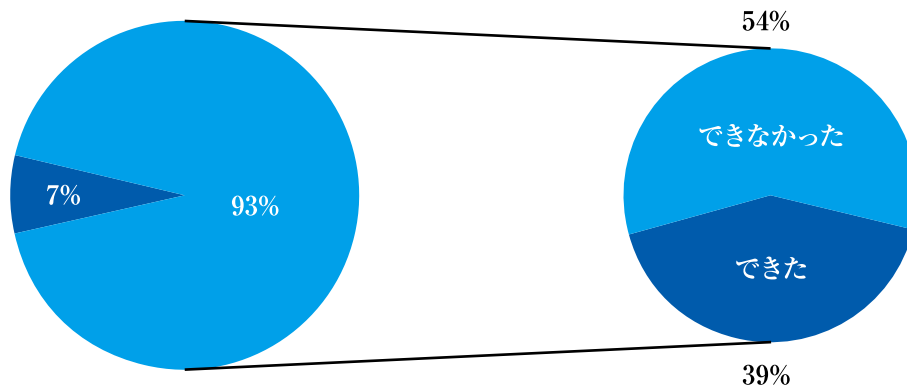
#### なぜ彼らはやりたいことを実行に移せなかったのでしょうか？

学生の多くが挙げた理由は、この2つでした。

- ①一人では達成出来ない内容で、周りが協力してくれるか不安だった。
- ②何から手をつけていいかわからなかった。

あなたもこれらの理由が原因で、「やりたいこと」をそのままにいませんか？実は少し行動を起こすだけで、これらの問題は解決できてしまうのです。

Q. 大学生活で何かやりたいことがありましたか、またはありますか？



## 3-2 周りにいる人にとりあえず宣言!

どんな企画も「1から」。企画のアイデアを思い付いた段階では、企画を手伝ってくれる仲間がいるケースのほうが珍しいかもしれません。「一人じゃできないし、周りが協力してくれるか不安・・・」

そんなあなたは、まず周りにいる人にその意思表示・相談をしてみましょう。実は、それがあなたの決心に繋がるのです。

**H大学でボート部のマネージャーをしているTさん（現在大学3年生）は、大学2年生のときに、ボートのナショナルチーム（日本代表）マネージャーになることを決めました。そのときについてこう語ってくれました。**

「1年生のときに、ナショナルマネージャーをやっていた人にお話を聞く機会があったんです。大学に入ってボート部のマネージャーになって、ボートと言う競技にすごく魅力を感じ始めていた時期でもありました。そのときに、機会があればやりたいなあくらいには思っていましたね。2年生の冬頃、HPで募集要項見て、先輩や同期に相談して、前任の人に話を聞いて、家族と相談して、決心しました。それが、自分が何でナショナルチームのマネージャーをやりたいのか、本気で考えるきっかけにもなったと思いますね」

Tさんは真剣なまなざしでその熱意を示してくれました。「ズバリ、なぜやりたいと思ったのですか?」と聞くと、

「うちのチーム（H大学ボート部）が日本一になるために、自分が出ることはこれかもって思ったからです。日本一になるためには日本一のチームから学ばないと!やりたいって思ったら、その気持ちをそのままにしてちゃもったいないですよ。挑戦してみなきゃ!」

H大学のボート部は、日本一を掲げて日々練習に励んでいるそうです。その組織で彼女は「自分に出来る日本一へのアプローチ」を考え、周囲に相談し、決心し、実行しました。

彼女はボート競技の経験者ではありません。しかし、そ

の挑戦する心と、自分の思いを周囲に伝え、理解してもらうことで、ナショナルチームから学び、H大学のボート部を日本一にするという大きな企画を起こす第一歩を踏み出すことが出来たのです。

## 3-3 手順を考えよう!

**「企画といっても何から手をつけたらいいのかわからない!」**

やりたいことを実行に移せない大学生にはこう思っている人が数多くいます。読者のみなさんも、いざ、企画を起こそうとなると「まず何をしなければならいんだろう」と思うでしょう。多くの大学生がここで挫折してしまうのです。

これまでに企画を実行してきた学生は、まずやりたいことについて目標を定め、次に目標達成までの全体的なプロセスを考えるとということを実行しています。

企画を実行する際に、重要なことが2つあります。

①目標の達成までに必要なことを並べてみる。

②それをいつまでにクリアすればよいか、スケジュールを立てる。

何事も順序立てて1つ1つ達成していくことが必要です。今自分はゴールの何%まで迫ってきていて、これから先どんなことが必要かを順次確認することができるからです。そのためにも特に②のスケジュール管理は大切です。

**筆者の大学の後輩であるO君がスケジュールの重要性について話してくれました。O君はサークルの同期で旅行に行きたいと思い、その企画を立てました。**

「最初はやらなければならないことがたくさんありすぎて、もう頭の中が混沌としていました。これまでにこんな企画やったことなかったの・・・サークルのメンバーに声をかける、どこに行くか決める、いつ行くか決める、何でいくか決める、どのくらいの予算におさまるのか決める、旅行先で何をするのか決める・・・やっぱり、何から手をつけよう?ってなりますよね。そこで、いつまでに何をしようか決めました。まず日程の候補を挙げ、メンバーを集い、日程

を確定し、どこに行きたいかアンケートをとって決め、そこから旅行会社に行ってプランを練る、という流れです。これらすべてをいつまでに終わらせるのか明確に決めたいので取り掛かりました。そしたら自然と企画が順調に進んでいるように感じましたし、次に何をやればいいのかははっきりしているのに迷うこともありませんでした。企画に限ったことではないですけど、スケジュール管理ってかなり大切ですよね」

○君は自分のスケジュール帳にいつまでに何をやるかす

べて書き込んでいました。1つ1つの期限や目標を設けることで順序よく企画を進められます。

本書には、企画の順序立てを手助けするために「企画マップ」というものを用意しています（詳しくは5章参照）。

「企画マップ」があれば、目標に向かって着実に進むことができます。

読者のみなさんに是非ご活用していただきたいものです。

**\*企画のタイトル**

大学生向けの電子書籍をつくる

**\*企画の目的**

形に残るものを作り上げたい!

**⇒最終目標は**

書籍バージョンを発売する

**\*段取り（おおよその実行過程）**

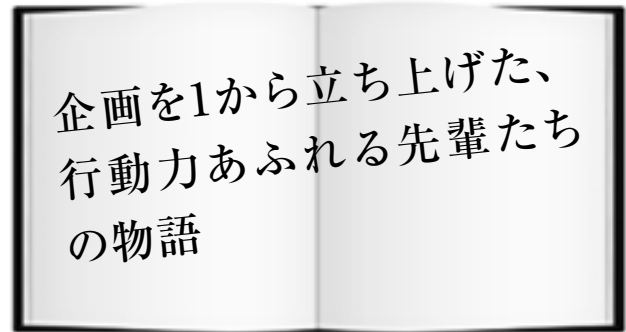
- ①アンケートで探索的調査!
- ②コンセプトをしっかり決める
- ③インタビュー実施
- ④販売経路を決定、内容固める
- ⑤書籍完成
- ⑥連動ホームページ完成

**\*必要な準備**

- ・色々とダウンロード
- ・締切要確認!
- ・
- ・

**\*調査すべきこと**

- ・本の需要
- ・電子書籍の創り方
- ・ホームページの作り方
- ・コンテンツの埋め込み方



★実際に企画を起こした大学生に  
突撃インタビュー!!!

第4章では、実際に企画を起こした大学生の先輩に突撃インタビューを行った結果を紹介します。企画を起こそうと思ったきっかけ、苦労や挫折、そして企画によって得た喜びは十人十色。企画実行の過程や問題の解決方法、これから企画を立ち上げようとしている皆さんへの実用的なアドバイスなど役立つ生の声が盛りだくさんです。

自分のやりたいことに似た企画を行った方や、自分と同じ大学の先輩も見つかるかもしれません!

- Vol.1 「活気あるお笑いサークルの立ち上げ」 お笑いサークルIOK
- Vol.2 「サークルオリジナルCDの制作」 Unplugged (アンプラグド)
- Vol.3 「趣味と夢を活かした地域への貢献」 DARUMA SB
- Vol.4 「大学を超えたコラボ企画の開催」 日進市カフェ×絵本企画

# 活気のある お笑いサークルを作る！



一橋大学 谷脇 太郎 さん

お笑い芸人になる夢があった谷脇太郎さんは、大学にお笑いサークルがないことを知り、サークルの立ち上げを決意した。サークルに入ってくれる仲間はいないかと探した結果、高校の友人と大学で知り合った先輩の3人が集まったため、学校に申請書類を提出した。

サークルの新歓において、サークルの人数集めをするために2つの大きな企画を考えた。

1. 芸人を本気で目指している人ではなく、お笑いがただ好きな人にも入ってもらえるようにした。
2. 女子に入ってもらうためにサークルのロゴ、サイト、紹介映像をおしゃれなイメージに改善した。

その結果、創部4年目にして30人規模のサークルとなっている！

## ～Q&A～

**Q.サークルを立ち上げようとするこって、勇気が必要ではありませんか？**

いやいや、自分はやりたいと思ったことはすぐやらないと気が済まない性格だからすぐに行動に移しました。やりたいことをやらないより、やって失敗する方が絶対にいいから。迷わずに進みました。サークルを立ち上げること自体は書類を提出するだけなのですぐにできますよ。メンバー集めも、本当にサークルを立ち上げたかったから積極的に声をかけました。

**Q.一番苦勞したことは何ですか？**

女子に入ってもらうためにサークルのブランディングをしたことです。自分に技術がないために、どんなロゴにすればいいのか、どんな映像が女子にうけるのかを勉強しました。

また、お笑いライブの運営をするときに、まわりのとりこみ方に苦勞しました。どうしても自分中心に進めてしまい、まわりの意見をうまく聞いていないという課題に直面したんです。今思うと、仲間と協力しながらやった方が絶対に時間もかからないし、クオリティの高いライブができたのではないかと感じています。

## 先輩たちへのアドバイスをお願いします。

僕の母親はよく「世界は自分中心に回っている。」と言っていました。

自分もこの言葉を大切にしています。他人にどう思われようが、そんなことを気にせずやりたいことはやる。それを徹底すれば充実した学生生活が送れると思います。

## インタビューを終えて・・・

谷脇さんはサークルの立ち上げから、ロゴの開発にいたるまでとても大きな企画をなさっている印象を読者のみなさんに与えたかもしれません。私ももちろんその企画の規模感に圧倒されました。しかし本当に学ぶべきことは、失敗を恐れずやりたいことは何でもやるんだという姿勢だと感じました。企画の大きさではなく、谷脇さんのチャレンジ精神を感じ取っていただけると今後企画を起こすうえで読者のみなさんにも生きてくるのではないのでしょうか。

一橋大学お笑いサークルIOKのホームページはこちら！  
<http://iok-owarai.com/index.html>

先輩にインタビュー！ vol.2

# サークルオリジナルのCDを作る！

一橋大学 小島 里恵 さん



アコースティックギターを中心とした音楽サークル Unplugged (アンプラグド)。

Unpluggedでは毎年テーマを設定してサークル員から好きな曲を聴きだし、サークルのオリジナルCDを作ってメンバーに配布するという企画がある。4年間続いているこの企画。今回はこの企画を立ち上げた小島里恵さんにお話を伺いました！

## ～Q&A～

### Q.CD作成の企画をしようと思ったきっかけは何ですか？

音楽サークルに入ったときに幅広いジャンルの音楽を聴きたいと思い、メンバーとどんな曲が好きか話をしてみたところ、メンバーは皆、他の人がどういう曲に興味をもっているのか知りたがっているということがわかりました。そこでCDへの需要があることを知り、企画しようと思いました。また、サークルのために何かできないかと思っていたことも、企画を実行した要因です。

### Q.一番不安だったことはなんですか？

自分が起こした個人企画だから、まわりの人が本当はどう思っているのかがすごく不安でした。

### Q.それに対する解決策はとりましたか？

できたときにメンバーにすごい!と言ってもらえるようなCDのデザインを考えたりしました。

### Q. 企画の中で一番嬉しかったことは何ですか？

自分の努力も通じたのか、後輩が「来年は僕が引き継いでやります」と言ってくれました。そのときすごくうれしかったです。

**これから企画を起こしたいと思っている学生にアドバイスをお願いします。**

まずは自分ひとりでもできるレベルからとにかく実際にやってみること。いきなり大それたことをしようとしても、学生だから失敗します。「こんな自分でも何かできる」からスタートすればいいんじゃないかなと私は思います。その小さな企画がうまくいけばさらに大きく育てていけばいいので。学生生活はあっという間なので、「思い立ったが吉日」でいいんです。

## インタビューを終えて・・・

小島さんの企画からは、発想者である小島さん自体も企画を立ち上げる前に不安を抱えていたことが感じられたのではないかと思います。それでも、自分のやりたいことを貫いた結果、後輩がその企画を継いでくれるという予想もしなかった嬉しい出来事が起こりました。企画を始める前には大きな不安が伴うものですが、実際にやってみることで自分が思っているよりも大きな喜びを得られることがあるという企画の素晴らしさが伝わる内容でした。

一橋大学Unpluggedのホームページはこちら  
[http://www.geocities.jp/unplugged\\_hit/](http://www.geocities.jp/unplugged_hit/)



先輩にインタビュー！ vol.3

# 趣味と夢を活かした 地域への貢献

名古屋学芸大学 立花 晃隆 さん

最近流行しているスケートボード。移動手段として利用している人も少なくなく、もはやマイナーな乗りものでは無くなっているのかもしれない。

このような状況は、昔からスケートボードをしている人たちにとっては嬉しい反面、悲しいことでもあるようだ。というのも、新参者のスケーターのマナーが悪いという声も少なくなく、このままではスケーター全体の印象が悪くなってしまおうという不安があるからだ。

そこで、「何か動きたい」と思ったのが今回インタビューに答えてくれた立花晃隆さん。趣味と学業、将来の夢が合わさった彼の企画は、スケートボードチームDARUMA SBを立ち上げ、仲間と一緒に地域の子供たちにスケートボードを教えるというもの。チームロゴなどはかなり凝ったものであり、彼のデザイン力が存分に発揮されている。

## ～Q&A～

### Q.企画を実行しようと思ったきっかけは何ですか？

デザインを学んでいて、将来はディレクター、プランナーになりたいと思っています。

そこでまずは自分の周り、好きなこと(=スケートボード)からやってみようと思い、この企画を始めました。

### Q.チームの立ち上げは大変でしたか？

感覚的には、仲のいい友達グループにグループ名をつけたり、バンド名などをつけたりすることに似ていると思います。

しかしただ名づけるだけでなく、しっかりコンセプトなどを決めると「これしかない」というネーミング、ロゴ、カラーが出てきます。

それが楽しかったので、最初にコンセプトを決めてからの作業は早かったです。



### Q.苦労したことは？

苦労したことは特にはないです。毎回楽しくやっています。みんなで何かひとつのことをするというスタンスではないからかもしれませんね。

### Q.これから企画を立ち上げる大学生にアドバイスをお願いします！

まず自分が行動で示すこと！

これが一番説得力があり、思いが熱く伝わります。

また、身内や学内だけで終わらせないこと！

## インタビューを終えて・・・

立花さんのインタビューでは、企画を起こすことがいかに楽しいことかをとても生き生きと話してくれました。まずは動いてみるということ姿勢はとても大切なことだと私も共感するところがあります。はじめの一步は勇気があるものですが、そこを乗り越えることができればあとはひたすら突き進むだけ。そのことを身を持って伝えてくれる内容でした。

晃隆さんのホームページ

<http://www.strikingly.com/akitaka-tachibana>

先輩にインタビュー！ vol.5

# 趣味と勉強のリンク ～学びから行動へ～

名古屋外国語大学 坪井 彩華 さん



幼いころからイラストやデザインに興味があった坪井彩華さんの起こした企画は地域開発を切り口に、大学ごとの得意分野（文章×イラスト）を生かしたコラボレーション企画。SNSなどを利用して自力で人を集めて大学付近のカフェと交渉し、大学生のつくった絵本を展示するという企画を立ち上げた。イラスト担当と文章担当でペアを組んでの制作。地域開発とともに、他大学同士の交流の機会も作り上げた。

## ～Q&A～

### Q.企画を起こしたきっかけは何ですか？

大学で受講している地域開発の授業で、「大学周辺の地域活性化の方法を考える」という発表課題が出たときにこの企画を考えました。大学が多い地域なのですが、普段はなかなか他大学との交流の機会がなくもったいないと思っていました。大学の得意分野や趣味を生かして交流する機会になるかもしれないと思い、実行を決めました。

### Q.一番苦労したことは何ですか？

人集めと調整です。イラストと文章、大学を越えてのコラボレーション企画だったので、ペアを考えたり人数を合わせたり……。あとはスケジュールの調整だったり、人によってはなかなか連絡をとれなかったり。でも、企画で得た広い人脈はこれからも絶対役に立つと思います！

### Q.「こうすればよかった！」と思うことはありますか？

実行する前にベースをきちんと作っておくべきだったこと。私の場合計画を詰めながら人を集めるという状況だったのですが、企画の内容が完全には決まっていない状態で人に企画の魅力を伝えるのは本当に大変でした。このことも初めは人が思うように集まらなかった原因だったんじゃないかなと思います。

### Q.これから企画を立ち上げる大学生にアドバイスをお願いします！

いきなり大きな企画を起こそうとせず、まずは自分の身の回りのことから企画のヒントを見つけましょう！初めは小規模な企画でもそれによって仲間やつながりができると、次はより大きな企画ができるようになります。

もう一つ。大学の教授はその道のプロ！必ず良いアドバイスをもらえますよ！

## インタビューを終えて・・・

坪井さんのインタビューからは、企画のメリットが人のつながりが大きくなるのが伝わったのではないかと思います。初めは本当に小さいものでもいいから、他人を巻き込んでみると、それが人脈の形成につながり、さらに大きな企画へとつながっていきます。協力してくれる仲間がいらないなどと不安に思っている読者の方がいれば、大変参考になるアドバイスだったのではないかと思います。

# 先輩方の企画を読んでみて…

---

先輩方の企画を読んだ感想はいかがだったでしょうか。

企画の内容だけ見てみると壁を感じてしまっていた読者のみなさんもあるかもしれません。しかし、実際にインタビューしてみるとどの先輩にも立ち上げときの不安や、企画段階でのさまざまな苦労があったことがみなさんにも伝わったのではないかと思います。

私自身、インタビューへ行って話を聞いてみると、先輩方は企画を成功させたときのワクワク感が伝わってくるかのようにお話をしてくれました。しかし、「どんな失敗があったのですか。」と聞いてみると「それは本当に大変だった。」と言うように苦労した経験を語ってくれました。そうした苦労の分だけ、得られた喜びが大きかったということがインタビューをしていてヒシヒシと伝わってきました。

さて、いよいよ第五章に入ります。

今度は読者のみなさんが企画を起こす番です。

第5章ではまず企画を起こす前に企画マップでやりたい内容や手順をしっかりと整理していただきます。その後、いよいよ企画を起こしていただきそのプロセスを日記に書いていっていただきます。



良く知っている友達同士で企画をするのも、学外の学生や初対面の有志で企画をするのもそれぞれに利点があります。例えば同じ大学の学生と企画を起こした場合、スケジュールが合わせやすく連絡をとるのも容易なので企画を早く進められる傾向にあります。それに対して他大学の学生や社会人を巻き込んで行う企画は、メンバー間での日程調整などに苦勞することがあるけれども、活動の場を広げやすく知名度を早く上げることができるという利点があります。

### ○ 企画日記を書こう

自分が立ち上げた企画の過程をいつでも振り返ることが出来るように、企画実行の記録をつけましょう。企画に対してフィードバックをもらったり、後々企画について文章に起こしたりする時などにも役立つはずです。企画の進行や日々の気づき、思いつきなど何でも記録しましょう。次ページにワークシートを用意しているので、ぜひ印刷して使ってください。また、下図のようにtwitterやブログ、無料掲示板などを企画日記として使用するのも良いでしょう。

## さあ、企画を実行しよう！

### ○ 企画マップを書こう！

やりたい企画の内容は固まってきましたか？

企画スタートに向けて、まずは頭の中のアイデアを整理してみましょう。

企画の実行にはしっかり概要を決め、計画を立てることが不可欠です。実行の過程やだいたい期間をあらかじめ決めておき、計画倒れにならないようにしましょう。

### ○ 人集めにとりかかろう

企画の大まかな概要が決まったら、少しずつ実行に向けて動き出しましょう。早めに始めたほうがよいのは、なんといっても「人集め」。企画によって巻き込む人の数は大きく変わってきますが、人集めで苦勞する人が多くいます。どの範囲でどれくらいの人を集めるのかを把握し、早いうちから動き出しましょう。

\*企画のタイトル

\*企画の目的

⇒最終目標は

までに

\*段取り（おおよその実行過程）

①

②

③

④

⑤

⑥

\*必要な準備

・

・

・

・

\*調査すべきこと

・

・

・

・

# 私のサークル立ち上げ計画！

**May.14** 編集 削除  
企画始動！この学校には手品サークルが無いからつくりたいな。マジシャン友達欲しいし、大学祭とかで発表したりコンテスト出たりしたいな。

**May.27** 編集 削除  
隣のクラスに入ってくれそうな人やっと1人発見。身近に手品に興味ある人あんまないなあ...

**June.1** 編集 削除  
インタビューページが更新されてた！SNSを使って他大学を巻き込んでイベントやった先輩がいるのか。早速Facebookに投稿してみんなにシェアしてもらおう。

**June.10** 編集 削除  
すぐ近くの大学の人が3人から連絡きた！インカレサークルにして、大学内のイベントだけじゃなくて地域の幼稚園とかで発表とかもどうだろ？

**Memo**

- ・6/16までにAさんに連絡
- ・サークル申請の書類もらうこと！

やっぱ資料読んだだけじゃわけわからなかった...。友達のゼミの先輩に、ボランティアサークルを立ち上げた先輩がいるらしく、今度話を聞！

1

Facebookに投稿  | Twitterに投稿  **Update!**

# 企画日記

企画名：

日付

MEMO

## 企画日記 (記入例)

### 企画名:ゼミでスキー旅行に行く!

日付		12/9	ちょっと締切超えてしまったけど、何とか全員分のお金集まった。
11/12	みんなでスキーに行きたいとゼミのみんなに告白。みんな行きたかったらしく賛同が得られた。企画に協力してくれる人が2人集まった。	12/10	生協に振り込み完了。
11/16	N君と一緒に大学生協へ行き、資料請求。行先の候補と費用を調査。	12/11	当日の集合時刻・集合場所をゼミLineに投稿。必要物も掲載。Aさんからホテルの設備について聞かれる。調査不足でした・・・
11/17	ゼミLineで参加者を募集。参加可能な日程もそのときに聞いた。締切はだいたい1週間くらいに設定。前日調査した費用や行先だいたい伝えた。	12/12	企画開始から一か月。ホテルに電話し、アメニティの調査。結果をLineで報告。みんな必要なものの確認ができたみたい。
11/25	参加者の締切。参加確定6人、保留3人になった。来られない人3人には次の企画で絶対参加してほしいなあ。	12/25	スキー前日。リマインダーとしLineに集合時間と場所を投稿。
11/29	N君と再度集まり、行先を確定させた。その足で大学生協へ行き、申込みを済ませた。前払い金が5000円もかかった。これは想定外!	12/26	スキー出発。全員無事に集合できました。
11/30	参加にかかるお金を徴収するためLineに締切を投稿。前回と同様1週間で集めきる予定。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行先は長野県・戸狩に決定 (11/29)</li> <li>・保留の3人については11/29までに連絡を必ずもらう!!</li> <li>⇒S君欠席確定 (11/26)</li> <li>    R君欠席確定 (11/26)</li> <li>    Sさん欠席確定 (11/28)</li> </ul>



## ○ 企画進行にずれが無いか確認しよう

最初にした「企画マップ」は、これからあなたが企画を立ち上げていく上でのまさに「地図」です。企画日記の記録を企画マップと定期的に照らし合わせ、企画を進める上でずれが起きていないかどうかを確認しましょう。

## ○ フィードバックをもらおう

企画が進むにつれて、予期せぬ課題に直面することもあるでしょう。

そんな時は大学の教授や先輩などからフィードバックをもらいましょう！客観的な意見をもらうことで、気づかなかった課題にも気づくことができます。

課題	解決策

# あとがき

---

これまで企画と聞いて「何か固いイメージ」「壁がある」と感じていた読者のみなさんが多いのではないかと思います。私は、そんなイメージを一掃したいという思いで本書を作成しました。

「企画」とは本当に楽しいことです。それを本当に覚えていただきたいです。ゴールにたどりつくまでに多くの困難が待ち受けているでしょう。その困難を乗り越れば自身の成長につながりますし、あとから振り返るとその努力が楽しかったなんて思えたりします。また、周りを取り込んで起こした企画は、多くの人を幸せにすることができます。自分の企画で参加者、関係者を喜ばせてあげることができれば、こんなにうれしいことはありません。みなさんにもそうした経験を是非していただきたいものです。

読者のみなさんには本書で読んだ内容を生かし「企画日記」に書き込んでいただきますが、実際にどのような企画を起こしたのか周りの友達と共有していただき、互いにフィードバックなどしていただきたいものです。やってみて楽しかった、とても辛かったなど、周りに共有したいと思った企画については是非、筆写の私達にも教えていただきたいです。おもしろいと思った内容につきましては、本書の第二版以降で是非紹介させていただきたいと思っています。もしかしたら読者のみなさんにインタビューさせていただくことになるかもしれません。これから大学に入ってくる後輩たちに「こんな企画をやったらおもしろい!」という内容のものを教えていただければ幸いです。

最後に、本書を書くにあたって本当に多くの方々にご協力いただきました。アンケートやインタビューに快く引き受けてくださった大学生の方々、一橋大学生協 秋田智之さん、東京農工大学生協工学部店 渡邊こずえさん、早稲田大学生協 日浅牧子さん、法政大学生協小金井キャンパス店 岩崎洋太さん、東京学芸大学生協 川上敦史さん、松井ゼミの同期のみんな、先輩の方々、そして松井剛先生に、この場を借りてお礼を言いたいと思います。「企む大学生」を通して読者のみなさんの大学生活が本当に充実したものとなることを切に願っております。

一橋大学 松井剛ゼミ 松原 悠・佐藤 あゆみ・井上 恵夢

## 1からシリーズ



1からの流通論  
石原武政・竹村正明 (編著)



1からのマーケティング  
(第3版)  
石井淳蔵・廣田章光 (編著)



1からの戦略論  
嶋口充輝・内田和成・  
黒岩健一郎 (編著)



1からの会計  
谷武幸・桜井久勝 (編著)



1からの観光  
高橋一夫・大津正和・  
吉田順一 (編著)



1からのサービス経営  
伊藤宗彦・高室裕史 (編著)



1からの経済学  
中谷武・中村保 (編著)



1からのマーケティング分析  
恩蔵直人・富田健司 (編著)



1からの商品企画  
西川英彦・廣田章光 (編著)



1からの経営学 (第2版)  
加護野忠男・吉村典久  
(編著)



1からのファイナンス  
榊原茂樹・岡田克彦 (編著)



1からのリテール・マネジメント  
清水信年・坂田隆文 (編著)



1からの病院経営  
木村憲洋・的場匡亮・  
川上智子 (編著)



1からの経営史  
宮本又郎・岡部桂史・  
平野恭平 (編著)

## 碩学叢書



マーケティング  
クリエイティブ (1巻)  
石井淳蔵・大西潔 (編著)



病院組織のマネジメント  
猶本良夫・水越康介 (編著)



百貨店の  
ビジネスシステム変革  
新井田剛 (著)



国際マーケティング  
小田部正明、K・ヘルセン (著)  
栗木契 (監訳)



メガブランド  
張智利 (著)



[新訳] 事業の定義  
デレク・F・エーベル (著)  
石井淳蔵 (訳)



セールスインタラクション  
田村直樹 (著)



ことばとマーケティング  
松井剛 (著)



新しい公共・  
非営利のマーケティング  
水越康介・藤田健 (編著)



企業変革における  
情報システムの  
マネジメント  
依田祐一 (著)



よみがえる商店街  
畢滔滔 (著)

## 碩学舎ビジネス双書



商業・まちづくり口辞苑  
石原武政 (著)



ビジョナリー・  
マーケティング  
栗木契・岩田弘三・  
矢崎和彦 (編著)



旅行業の扉  
高橋一夫 (編著)



コトラー8つの成長戦略  
フィリップ・コトラー/  
ミルトン・コトラー (著)  
嶋口充輝、竹村正明 (監訳)



寄り添う力  
石井淳蔵 (著)



グローバル・  
ブランディング  
松浦祥子 (編著)

## SBJ 碩学舎ビジネス・ジャーナル

<http://www.sekigakusha.com/sbj/>



vol.1  
 商業を捉える論理  
 石原武政・水越康介・西川英彦



vol.2  
 「創造的瞬間」とは何か？  
 石井淳蔵・水越康介・西川英彦



vol.3  
 マーケティングの論理  
 嶋口充輝・水越康介・西川英彦



vol.4  
 事業の定義復刊の意義  
 石井淳蔵



vol.5  
 欲望とは何か  
 田中洋・水越康介・西川英彦



vol.6  
 データをマッサージする  
 中西正雄・川上智子・石淵順也



vol.7  
 日本の管理会計：  
 「数字へのこだわり」とインターアクション  
 が創造性を生み出す  
 谷武幸・窪田祐一・廣田章光



vol.8  
 碩学アーカイブ 石原武政-1  
 石原武政



vol.9  
 碩学アーカイブ 石原武政-2  
 石原武政



vol.10  
 碩学アーカイブ 石原武政-3  
 石原武政



vol.11  
 日本のコーポレート・  
 ガバナンスを問う  
 加護野忠男・山田幸三・吉村典久



vol.12  
 碩学アーカイブ 石原武政-4  
 石原武政



vol.13  
 『1からの病院経営』  
 刊行にあたって  
 木村憲洋・的場匡亮・川上智子



vol.14  
 『セールスインタラクション』の  
 刊行にあたって  
 : 営業が生み出す消費欲望とは？  
 松井剛



vol.15  
 碩学アーカイブ 石原武政-5  
 石原武政



vol.16  
 『新しい公共・非営利のマーケティング』  
 の刊行にあたって  
 水越康介・藤田健



vol.17  
 第1回碩学舎賞奨励賞受賞作  
 「日本企業の多角化と企業価値に  
 関するパネルデータ分析」  
 池田雄哉



vol.18  
 第1回碩学舎賞奨励賞受賞作  
 「後発企業のネットワーキング戦略  
 -北海道におけるワイン・クラスターの  
 競争逆転-」  
 長村知幸



vol.19  
 碩学アーカイブ 石原武政-6  
 石原武政



vol.20  
 消費者行動研究と戦略論をつなぐ  
 和田充夫・新倉貴士・水越康介



vol.21  
 最終講義  
 「マーケティングと消費者行動」  
 池尾恭一



vol.22  
 1からの経営学部  
 伊藤貴晃・岸本のぞみ・久野恵理子  
 (法政大学経営学部 西川英彦ゼミ  
 チームローニーズ)



vol.23  
 『よみがえる商店街  
 : アメリカ・サンフランシスコ市の経験』  
 刊行にあたって  
 畢滔滔



vol.24  
 『寄り添う力  
 : マーケティングをプラグマティズムの視点から』  
 刊行にあたって  
 石井淳蔵



vol.25  
 1からの学生生活  
 坂田葉・上田将迪・中野海地  
 (関西学院大学 石淵順也ゼミ  
 チームSUN)



vol.26  
 1からの学生生活  
 松原悠・佐藤あゆみ・井上恵夢  
 (一橋大学 松井剛ゼミ)



# Sカレ

Student Innovation College

Sカレは、実際に商品化を目指す、28大学横断の商品企画プロジェクトです。  
「Student Innovation College」"Sカレ"は、教室でマーケティングを学ぶ学生たちが、  
「ビジネス・モノづくり・発想力」をリアルな現場で学びます。

Sカレサイト <http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>

SBJ-碩学舎ビジネス・ジャーナル- vol.26 (2014年6月23日発行)

碩学舎×Sカレ「1からの学生生活」

一橋大学 松井剛ゼミ

松原 悠・佐藤 あゆみ・井上 恵夢

Online edition : ISSN 2187-0845

## 碩学舎の会員になりませんか？

碩学舎の教員会員ページでは、大学・専門学校の教員の方へ向けて「1からシリーズテキスト」を使った講義に役立つ資料や情報をお届けしています。

※教員会員ページにはログインが必要です。教員会員資格は、大学・専門学校の教員および博士課程の大学院生の方に限ります。

株式会社 碩学舎  
Sekigakusha

〒101-0052  
東京都千代田区神田小川町2-1 木村ビル10F  
フリーダイヤル 0120-778-079

碩学舎公式サイト

<http://www.sekigakusha.com>

Facebook

<https://www.facebook.com/sekigakusha>